

# 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立 三国丘中学校  
校長 吉岡 哲郎

中学校区におけるめざす子ども像 ○自分も人も大切に子ども ○主体的に考え、行動できる子ども <時を守り 場を清め 礼を正す>

## 令和7年度 重点目標

《令和7年度 堺市学校園運営における指針》【1】「総合的な学力」の育成 【2】不登校の子どもへのサポート【3】つながる教育の推進【4】えがおあふれる学びの場づくり（基本施策1, 7, 8, 11）

《学校目標》①時を守り 場を清め 礼を正す ②主体的な学びの場の創造 ③防災という教育を通して“命”を学ぶ

## 「確かな学び」の現状

全国学力・学習状況調査より、生徒に必要な資質・能力のうち「知識・技能」については、学習に一定の成果が認められる。「思考力・判断力・表現力等」については、課題があり、個別最適な学び・協働的な学びの充実を図り、主体的・対話的な深い学びの視点からの授業改善が求められる。また、教師の生徒理解能力、コーチングマインドなどの基礎的能力の向上のための研修の充実を図り、学校力アップに繋げる。

## 「豊かな心・健やかな体」の現状

全国学力・学習状況調査より、「将来の夢や目標を持つ・難しいことでも挑戦する・やり遂げようとする・人が困っているときは進んで助ける」など、個人的な心情・人間性の観点では肯定的である。一方で地域活動への参加など主体的に社会の形成に参画する態度（主権者教育的）の育成に取り組んでいる。具体的に学校行事や生徒会活動の取組、地域と連携した取組を推進し、地域との関りを実感し、未来の社会を創ることができるといふマインドの醸成に努める。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	【1】「総合的な学力」の育成 主体的・対話的な深い学びの視点で 授業改善を図る。	●研究授業の実施など、研修体制の充実を図る。	研修計画に沿って、複数回の研修を実施する。	実施状況	年度末	○ 堺市の研修制度に積極的に参加。全市公開の新任研究授業に新採3名が授業者として参加。全教員参加の研修(生徒理解について)を1学期に実施。	○ 予定通り実施	○ 授業改善は、優しさのある教育環境づくりとして最重要である。継続した積極的な研修の取り組みを期待する。
			授業中の調べる場面、意見交換や自分の考えをまとめ発表する場でICT機器を活用する。	発表などの場でICT機の活用する場を各学年で年3回以上設定する。	実施状況	年度末	○ 予定通りICT機器を活用。	○ 予定通り実施	○ 活用頻度が目標ではなく活用を授業者が選択、真に学力向上に資する工夫してほしい。
小中連携		【3】つながる教育の推進 小中一貫カリキュラムの基盤作り (学びの連続性)	●★中学校区の小・中学校の校長を中心に2小1中の教職員内の合意形成を図る。	①学期に一回以上、2小1中の校長会で定期的な意見交換の場を設定する。 ②令和7年度の「めざす子ども像」を共同作成し、関係者に周知する。	実施状況	① 年度末 ② 1学期末	○ ① 校長会を毎月第2火曜日に実施。 ② 作成 2小1中で周知に努める。	○ ①予定通り開催 ②7月29日、小中合同研修会を開催。「めざす子ども像」の共有が進んだ。	○ 来年度も継続的な取り組みを期待する。
			●特別活動(学級活動・生徒会活動・学校行事)を、主体的に社会の形成に参画する態度の育成の視点で実施する。 ・生徒会活動を中心の取組の推進。 ・校舎改築に伴う部活動の見直し。	①「子ども塚学推進事業」など市の施策を活用(生徒会活動)。 ②3年間の特別活動の成果発表の場を作る(学校行事)。 ③部活動検討WGを開催、R8以降の方針を作成する。	実施状況	① 年度末 ② 1学期末	○ ①「子ども塚学推進事業」の承認を受け自転車プロジェクトを進める。12月・自転車安全教室を生徒会主導で開催。 ② 3年生の成果発表会を1学期、フェニチエ堺・小ホールで実施。 ③ 2学期、部活動WGを実施。部活動の方向性を検討。12月中に保護者・生徒にR8年度以降の部活動の在り方について説明の場を設ける予定。	○ ①「子ども塚学推進事業」として、生徒会を中心に活動を継続実施することができた。 ②予定通り実施。生徒自身の作成したパワーポイントでのプレゼンで3年間の集大成としての発表ができた。多くの保護者と市教委など関係者の参観もあった。 ③11月12日、部活動検討WGを開催。堺高校・三国丘高校・近隣中学校との連携を進める。	○ 「主体的な学びの場の創造」を目指し、修学旅行を最終点とした3年間の計画的な取り組みと実践、いくつものプロジェクトを立ち上げ推進した生徒会活動を高く評価する。
豊かな心・健やかな体	学びの機会の確保	【2】不登校の子どもへのサポート 【4】えがおあふれる学びの場づくり	●★不登校、いじめなど課題について、中学校校長・担当者を中心に学校群として取組。一人ひとりの安全・安心が守られた居場所づくりを地域と協働して進める。	①不登校・いじめに関する理解を深めるため、学期に一回の定期的な意見交換の場を設定し、小中合同の夏季研修を実施する。 ②不登校・いじめの件数減を目標とせず、状況改善への手立ての工夫・向上があったか、子どもや子どもを取り巻く教育環境が改善されたかを評価基準とする。	実施状況 及び 年度末の結果報告	年度末	○ ① 3校生徒指導情報交流会(月1)、7月に2小1中の合同研修会を実施。 ② 不登校傾向の生徒に定期的(週1回)に家庭訪問、校内の「心の教室」や堺市設置のスプリングポイントの利用、フリースクールとの連携など関係機関との連携に努める。生徒理解のためにスクールカウンセラーを講師とした研修会を実施。	○ ①7月29日、小中合同研修会を開催。校務分掌ごとにグループで意見交換。 ②不登校の生徒の傾向として、外部機関との連携、校内の別室利用等の教育環境が改善されたと思われるケースが全体数の約4割となった。	○ 不登校の取り組みについては、子どもがつながる授業づくりなどより優しい安心感のある学校教育環境を作るよう努力を続けてほしい。
地域連携	学校づくり	③防災という教育を通して“命”を学ぶ	●★青少年健全育成会の活動を再開し、「防災という教育を通して“命”学ぶ」をテーマとした活動を推進する。	地域・保護者が子どもの成長を支援する意識の向上や喜びに繋がる学びの場としての「講演会」を実施する。	実施状況	年度末	○ 1月24日に「講演会」実施を予定。	△ 1月24日に「講演会」を実施。参加者は大人25名。課題:子どもを巻き込んだ活動になっていないこと、参加者が少なすぎる。周知方法やPTAへの呼びかけなど改善すべき。	○ 青少年健全育成協議会を防災教育を中心に展開し、2小1中の子どもたちを巻き込んだ活動に発展してほしい。

校長より(年度末)「総合的な学力」の育成:中学生チャレンジテスト、全国学力・学習状況調査、堺市学力状況調査のすべてで全国・府・市の平均を上回っている。また、堺市学力状況調査では、経年比較の結果、5つの学力レベル全てにおいて2年次が上回っている。つながる教育の推進:小中の連携については、まだ課題が大きい。取り組みの見直しが必要と思われる。主体的な学びの場の創造:特別活動が中心の取り組み。集大成である修学旅行に至るまでの過程で、学年を追うごとに自立した取り組みへと成長している。不登校の子どもへのサポート・えがおあふれる学びの場づくり:子ども同士がつながりを感じる学びの場にはなっていない。授業力向上を中心とした更なる環境改善が求められる。防災という教育を通して“命”を学ぶ:青少年健全育成協議会では「平和学習」になったが、防災教育については、各学年で校外学習や宿泊訓練でもテーマにしており、今後も継続的に取り組みたい。

学校関係者評価者から(年度末)「主体的な学びの場の創造」の取り組みを高く評価する。不登校の課題は、子どもがつながる授業づくりなどより優しい安心感のある学校教育環境を作るよう真に学力向上に資するよう指導法を工夫してほしい。健全育成を防災教育を中心に展開、子どもたちを巻き込んだ活動を期待。校舎改築のピンチをチャンスに変える取り組みの工夫を期待したい。